

こころ医療福祉専門学校佐世保校
平成29年度学校関係者評価委員会議事録

【日時】平成29年5月28日（日）13:50～14:30

【会場】こころ医療福祉専門学校佐世保校 4階 会議室

【委員】出席：田中秀樹（長崎県柔道整復師会佐世保支部）

久貝博（長崎県鍼灸師会）、山頭正代（あんじゅ鍼灸院）

廣瀬典治、舘川大輔、中村裕也、初村修平

欠席：井手浩二（いで整骨院）

（敬称略）

1 開会の辞（司会 舘川大輔）

本会の開会目的及び配布資料の説明を行う。

2 学校自己評価の説明と評価（校長 廣瀬典治）

専門学校では、平成19年度から学校教育法及び同法施行規則において、学校自己評価の実施・公表が義務付けられている。本校でも、開校翌年の平成26年に、学校自己評価委員会を発足し、2年間、長崎校と合同で学校関係者評価委員会を実施し、昨年度28年度から、佐世保校単独で実施している。評価の内容については、文部科学省の学校評価のガイドラインに沿って進めているところだ。本日、目を通していただき、ご意見・ご教示をいただければ幸いだ。

また、岩永学園では、今年度から、「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」という新たなビジョンを設定した。テーマは、①地域社会から必要とされる組織であり続ける、②地域社会から必要とされる人材を提供する、である。

基本方針として4つの事業を連携させて組織運営することを挙げている。①社会福祉法人壺心会の（ア「壺岐のこころ」、イ「こころのしろ」）を実習施設として有効活用②日本語科と介護福祉科と介護事業の連携③人材支援事業④外国人技能実習生の支援事業である。

具体的な評価項目について抜粋して説明申し上げる。

2ページの教育理念・目標については、ホームページや保護者との面談、配布物を通じて周知している。

3ページの上から7番目の教育活動等に関する情報公開の評価について、3から4に格上げした。カリキュラム・時間割・シラバス等、情報公開を行っている。学校運営に関する今後の課題として、新しいビジョンに基づいて新たなPDCAのチェックを実施

する。

4ページの上から5番目の関連分野における実践的な職業教育は、平成30年度新カリキュラムにおいて、スポーツ柔整科が臨床実習に関してお願いしていくことになる。6番目の授業評価についての項目だが、授業評価は年2回実施している。7番目の職業教育に対する外部関係者からの評価についての項目は、年に2回の委員会で皆さんの意見をいただき、教育活動に活かしている。10番目の教員の確保について、評価は3だが、現職の先生方には十分に頑張ってもらっている。12、13番目の教員の研修については、外部での研修会は年最低1回、内部は年に2回長崎校と合同で実施している。昨年も議題になったが、授業評価の改善策は不十分だ。善後策についてはPDCA面談で話し合っている。

5ページの3番目の退学率に関しては、なかなか0というわけにはいかない。方向転換や経済的な理由、学力不足で年間5名程度退学者がいる。平成27年度は柔道整復科で5名、健康鍼灸科で1名、平成28年度は柔道整復科で6名、健康鍼灸科で5名の退学者が出ている。今年度は今のところ退学者はなし。担任を中心にできる限り、学生の健康状態の把握や学修の進捗状態等に面談等を通して対応しているところであり、退学者0を目指して頑張っていきたい。4番目の卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているかという項目について、去年は2だが今年は4の評価を付けている。館川学科長や石橋広報部が精力的に整骨院を回っているところだ。卒業後のキャリア形成に関しては、学科長会議で情報を共有し、今後も卒後教育を行っていく。

6ページの2番目の学生相談に関する評価は昨年度と変わらず2のまま。専門のカウンセラーを配備できていない。担任が努めて学生の相談に乗っているところだ。5番目の課外活動支援体制の整備については、全部で5つの部が活動している。トレーナー、野球、バドミントン、バスケ、柔道。特にトレーナー部活動に力を入れ、広報としても活動している。

7ページは2番目の項目のインターンシップについて、柔道整復科に関してだがこれからお願いをしていくところだ。研修については柔道整復科・健康鍼灸科合同で夏の中国の上海へ研修に行っている。

8ページは学生の受け入れ募集についてだが、数としては厳しい状況にある。効果的な広報活動を行っていききたい。高校訪問先として佐賀県に視野を広げて努力する。

9ページの財務に関しては、新しい事業展開に着手している。特に留学生事業が大きくなっているところになっている。

11ページの社会貢献・地域貢献については、トレーナー部の3高校の部活動、地域イベント（マラソン大会等）でのトレーナー活動、本校所在地区での市民大清掃への参加等、努力しているところだ。

12ページの2番目の留学生受け入れについて、入管手続き、在籍管理等、適切に行っている。本校においては失踪したのは今年1名。入国管理局より適正校として認定さ

れている。

13ページは総合的な評価結果である。

(1) 教育について

国家試験合格率は、柔道整復科、健康鍼灸科ともに、全国平均を上回った。就職率は、2学科で100%を達成した。

(2) 企業や地域との連携・社会貢献

「教育課程編成委員会」「学校関係者評価委員会」において、企業を代表される委員の方々からの貴重な意見・情報、広報部を中心とした関連施設訪問時の本校に対する建設的な意見・情報を聴取する等企業との連携深化を図っている。

各種スポーツ大会や、高校部活動において、学生・教職員のボランティア活動、また地域の行事や地域清掃等、積極的に参加し、地域貢献にも力を入れている。

(3) 留学生の受け入れ・海外教育機関との連携

本校「日本語科」において、南アジア、東南アジアから留学生を受け入れ、日本語能力の向上と日本文化、日本生活文化・習慣等の教育に努めている。平成27年10月入学生（第1期生）52名の内、帰国者4名を除いて、全員が希望する専門学校や大学へ進学することができた。

3 意見交換

久貝) 留学生の中で進学する学生はいるのか。

校長) 卒業生52名中4名は帰国したが、その他は進学している。自動車の学校やアニメーション、福祉等の学校だ。佐世保校からこころ医療福祉専門学校壱岐校へは7名が進学した。

久貝) コナミ鍼灸整骨院はどこにあるのか。

校長) 長崎市内にある。

田中) コナミの中か。

校長) そうだ。

山頭) 長崎の介護付き有料老人ホームには入所しているのか。

校長) 入所は9月からだ。柔道整復科、健康鍼灸科も実習等、何らかの形で連携していく。

田中) 柔道場はどこにあるのか。大会等があるのではないか。

舘川) 本館の3階にある。柔道の大きな大会には出ていない。佐世保地区の地域大会のみだ。

久貝) 大会に出るにしても、気分転換程度に、怪我しないようにしてほしい。

田中) 図書館に書籍が少ない。専門書の購入は検討しているのか。

舘川) 学生が質問に来た時に貸すような対応のみだ。

山頭) 私が在学中は、重要な本は職員室にあるため、先生に頼んでコピーしたり借りたりしていた。

校長) 開校当初は図書室に本を並べて置いていたが、問題があり、あまり置けなくなった。

田中) DVD の閲覧はできるのか。

舘川) 貸し出し用のパソコンはある。しかし DVD を見たいということではなく、文書や資料作成に使っているようだ。

田中) 動画で見た方がわかりやすいとは思いますが、学生からの要望はないのか。

舘川) 多くはないが、その都度対応している。

田中) インターネットが普及していて、自分で調べているのかもしれない。

久貝) インターネットは本と違い嵩張らないから便利だ。学生に検索力を身に付けさせると良いかもしれない。

中村) 今の学生は我々教員よりも検索力があり、すぐに調べることができるようだ。

4 閉会の辞 (司会 舘川大輔)

以上で本委員会を終了する。